

第 93 回日本獣医麻酔外科学会報告書

(第 105 回日本獣医循環器学会との秋季合同学会・アジア獣医外科学会)

場 所：福岡国際会議場 **Fukuoka Convention Center**

日 時：2016 年 12 月 2 日（金）～3 日（土）

参加者数：671 名

合同学会代表：草場治雄

大会長：樋口雅仁（麻酔外科）、平川 篤（循環器）

第 93 回日本獣医麻酔外科学会は、「金・土開催なので人が集まらないのではないか」という当初の心配をよそに、晴天に恵まれるなか、671 名の参加者が集まり大成功裡に終えることができました。

博多湾を見下ろす 4～5F に設置された 8 会場（展示込）は行き来しやすく、聞きたい会場への移動が楽なのが好評で、展示会場も盛況でした。

1 日の木曜日は、サテライトセミナーが 1 つおこなわれ、3 分野（麻酔・疼痛管理、整形外科、軟部組織外科）の委員会が 17:00 より開催されました。これらの委員会では今回の学会の事は勿論ですが、次回大宮でのプログラム内容の検討も行われます。本当に役員は、1 年中麻酔外科学会に関わって活動しなければなりません、

各専門委員会が準備したプログラムは、専門性が高いものだけでなく、身近で対応が難しいテーマが扱われていたことで、初めて本学会に参加される九州の先生方にも大変好評でした。一般口演は 48 の演題が集まり、二次医療施設のビッグデータ、大学の前衛的・実践的研究、示唆に富む症例報告など多様な発表がなされ、全体にプレゼ



ンの質が高く、十分時間をかけて議論されていたと思います。

特別講演は新生児医療（茨 聡先生）がテーマで、気遣いを忘れず送迎・出迎えに奔走した先生方の努力の甲斐もあり、茨先生にも気持ちよくご講演いただき大盛況でした。

初日夕刻には、二学会合同学会の歴史を築いた坂本紘先生の記念講演が行われました。各界で活躍する教え子が最前列に居並ぶ光景に、師弟の絆、先生の人生そのものが現れていたのが印象的で、笑いを交えながら語る実験エピソードのなかには、in vivo の外科研究の真髓を感じ、まさに「温故知新」のメッセージに溢れた素晴らしい講演でした。

記念講演が盛り上がり、情報交換会は遅れてスタートしましたが、当日昼までの心配をよそに、予想以上の会員にご参加いただきました。会は鳥巢至道先生が司会を務め、草場代表の熱意溢れる挨拶からはじまり、最後まで会場全体に談話するグループが溢れ、料理も無駄に残りすぎることなく、次大会の成功を祈念する三本締めで終了しました。その後の二次会も地元の先生がお骨折りくださり、福岡の夜を楽しんでいたことと思います。

福岡市の先生方は、次の日のことを考えて、早めに帰りたいのですが、遠来の先生方をほおって置くわけにも行かず、深夜までおつき合いなさっていました。

それで連日の 8:00 開始の実行委員会には、遅刻される先生もおられました。仕方がありませんが・・・

その他、5つのランチョンセミナー、2つの若手獣医師 Basic セミナー、翌日には



会場を変えて麻酔外科学会のサテライトセミナー（TPLO）と合同学会のサテライトセミナー（超音波実技）が行われました。

また、2日目の最後には初の試みとして整形外科症例検討会があり、相当な数の会員が参加していました。症例を掘り下げて、臨場感あふれる解説がなされ、一般臨床獣

医師や初学者にとっても魅力的な企画だったと思います。

なお、今回の学会では運営面で以下のような試行を行っています。

実習（サテライトセミナー）を学会後に別途企画したこと

- ・実行委員（中国・四国、九州）が手弁当

で集まり入念に打ち合わせをしたこと

- ・その熱意が伝わるよう会議風景、実行委員の写真を学会抄録に掲載したこと

- ・後援団体（獣医師会）のルートでのアナウンスを、事前登録の期限延長を伝える目的で2回行ったこと

- ・その際、地域色のある目玉企画（今回は坂本先生の記念講演）のチラシを別に作り、参加を呼びかけたこと

- ・事前登録終了後に参加者リストを実行委員に配り、声かけに利用したこと

- ・情報交換会の参加者不足が懸念されたため、当日午後の企画で参加を促したこと

・後援団体（獣医師会）の重要なアナウンス（今回はパブリックコメント）を学会で行ったこと

それぞれの効果は定かではありませんが、地方開催ではとくに、様々な集客努力が必要だと痛感した次第です。



宮崎市の伊東輝夫先生が優秀論文賞を受賞なされ、授賞式が行われました。おめでとうございます。

また、応募演題の制限、口頭発表者の適否（学生）、若手の学会離れなど様々な課題も挙げられ、今後も学会の活性化・適正化に向けた工夫が必要だとも感じました。

とはいえ、平日からの地方開催であったことを考えれば、671名の参加者が得られたことは大成功であり、新しい試みからも、次につながる大きな収穫が得られました。

以上、第93回日本獣医麻酔外科学会の報告とさせていただきます。

平成28年12月5日

第93回日本獣医麻酔外科学会大会長

樋口雅仁

（文責 樋口雅仁・伊東輝夫）